



【さとう まさき さん】長都駅前 / 60歳
●宮城県人会幹事長として、「ふるさとポケット」で特産品を販売するなど会の運営の中心として活動している。東日本大震災では募金活動や食糧提供など積極的に活動。復興に向け息の長い支援をと意気込んでいます。

東日本大震災の復興が宣言されるまで支援を続けたい



人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



MASAKI
SATO

政記

さん

市内では、宮城県出身の方やゆかりのある方約90人が宮城県人会を組織しています。「ふるさとポケット」や「市民餅つき大会」への参加などを通して、会員相互の交流やふるさと宮城のPRを行っています。

佐藤さんは、幹事長として宮城県人会の中心的役割を担っています。

1年前、宮城県をはじめとする東北地方は東日本大震災で甚大な被害を受けました。「すぐに県人会として何かできないかと思い、まず、街頭募金と会員の義援金集めを始めました。また、友好関係にあった名取市から物資が足りないとの連絡を受け、急いでタマネギを送りました」と当時を振り返ります。

「震災が発生してから2週間後に宮城県の石巻市を訪れました。被災地は、言葉では言い表せない、どうしたらこういうむごい光景になるのかと思う惨状で、自然の驚異の力を知り、衝撃を受けました」といいます。

「お金だけでなく私たちも汗をかいて新鮮な野菜をつくり、食べてもらおう」と考え、県人会で市内の畑を借りて野菜をつくり、秋にはジャガイモとカボチャ約3トンを収穫、気仙沼市などに送りました」と心をこめた支援を話します。

これまで4回被災地を訪れたという佐藤さん。「宮城県をはじめ東北地方の皆さんは、復興しよう、元に戻そうという強い気持ちを持っていま

す。決してあきらめていません」と人々の力を感じています。

今後は、宮城県から千歳に避難してきている方への心のケアなどの支援を中心に活動したいそうです。

「街頭募金のお金は日本赤十字社を通して被災地に送ることができました。市民の皆さんからあたたかい心遣いをいただき大変感謝しています。何年かかってでも長い道のりでも、復興が宣言されるまで、被災地の皆さんを支援したい。今後も息切れしないように復興の手助けを続けます」と力強く話してくれました。

※宮城県人会では会員を募集しています。詳しくは、佐藤さん（☎27-4539）までお問合せください。

佐藤